

# INSTITUTE OF LABOR EDUCATION & CULTURE 30

教育文化協会  
1995 → 2025  
30年のおゆみ



公益社団法人  
教育文化協会  
理事長  
相原 康伸

## 共に歩んでくださった すべての皆様に、心より感謝

教育文化協会が設立30周年という節目を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

1995年12月の設立以来、当協会は広く勤労者の生涯にわたる教育とその家族も含めた文化活動の支援を目的とし、労働教育及び教育文化活動を継続してまいりました。時代の変化に柔軟に対応しながら、Rengoアカデミー・マスターコースや連合大学院の開設、全国への連合寄付講座の展開、幸せさがし文化展等の文化事業の推進、出版事業など、多岐にわたる取り組みを通じて、学びと心の豊かさに寄与してきたものと自負しております。

この30年の歩みは、決して平坦なものではありませんでした。社会構造の変化、価値観の多様化、そして近年では感染症の流行など、私たちを取り巻く環境は大きく揺れ動きました。しかしながら、そうした困難の中にあっても、教育と文化の力が人々の心をつなぎ、希望を育むものであることを、私たちは幾度となく実感してまいりました。

教育文化協会が取り組んできた教育事業は、単なる学びの場にとどまらず、人と人とが出会い、語り合い、共に創造する場でありたいと願っております。知識の習得のみならず、豊かな感性の涵養、そして未来への希望を育む場として、今後もその役割を果たしてまいります。

昨今のデジタル技術の進展により、学びの形や芸術の表現も大きく変化していますが、対話と共感を基盤とする教育・文化の本質は、決して揺らぐものではありません。新たな技術を活用しつつ、人間の尊厳、その尊さを追求する活動を、これからも推進してまいります。

記念誌の発刊にあたり、これまでの30年の歩みを振り返るとともに、未来への確かな一歩を踏み出す契機とし、これからも働く人とその家族の労働教育・文化活動を支援してまいります。

結びに、教育文化協会の理念に共鳴し、共に歩んでくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 時代の要請に合わせ、活動の幅を広げ、 深化させることを願います

公益社団法人教育文化協会設立30周年を心よりお慶び申し上げます。

「勤労者の生活及び文化教養の向上と自主的・民主的な労働運動の発展に寄与する」との設立目的のもと、30年間にわたり多方面での活動を重ねてこられました。その歩みは、連合のそれと歩調を一にし、日本の労働運動の底支えを、とりわけ、人材育成という観点から担われてきました。多くの労働運動家を育み、市井における草の根の運動に関心を寄せる人々の背中を推し、以って、労働運動の灯を絶やすことなく、今日に紡いでこられた功績は、多大なものです。その営みに携わられたすべての皆様に心より敬意を表します。

連合運動においては、若手の労働運動家を養成する取り組みを創意工夫のもとに様々に展開いただいており、「連合大学院」や「Rengoアカデミー」といった教育活動を通じて多くの組合役員がさらなるステップアップを図る機会を得ています。現に、これらの教育プログラムを受けた修了生が、加盟組合や産業別労働組合の役員、さらには連合本部の役員に就いており、連合総体としての基盤強化に大いに役立っています。

また、全国各地の大学における「連合寄付講座」を地方連合会とともに開講し、大学生への労働教育を推進してこられました。いわゆる「失われた30年」とされるデフレ経済の下では、就職氷河期世代と呼ばれる世代や職を得たとしても厳しい労働環境の中で、心身を壊すなどした若者たちも多く見られ、深刻な社会問題となりました。「連合寄付講座」に見られるような労働教育が、社会に出る一歩手前の、まさに世の人財となりうる多くの若者に届いていたなら、現在の日本の風景はもっと違ったものになっていたのではないかという忸怩たる思いがあります。目下、30校を数える大学で講座が開講されており、今後、さらなる広がりを期待せずにいられません。

教育文化協会が設立された30年前と比較し、現在は、不確実性が大きな時代であると言われています。ともすると既存の知見だけでは乗り越えることのできない事象があちらこちらで見られ、さらにはAIなどの革新的技術の登場により、課題解決の手法も様変わりしています。教育文化協会の設立目的には、「社会構造の変化や時代の要請に応えられる人材の育成を図る」とも記されており、その目的に適った取り組みが、今まさに時代の要請とされています。教育文化協会の果たすべき役割は、これまででも、今も、そして、これからも色褪せることはありません。益々、その活動の幅を広げ、深化を願い、30周年に寄せるメッセージといたします。ともに歩み続けて参りましょう。



日本労働組合総連合会（連合）  
会長  
芳野 友子



公益社団法人  
設立30周年  
感謝の集い



主催者を代表して、教育文化  
協会設立の趣意などを説明  
しながら、感謝の挨拶をする  
相原康伸理事長



左が「えでゅー」  
右は「かるるん」



司会を務めた  
遠藤和佳子常務理事



ILECのスタッフ一同

より良い事業運営を誓い  
希望の持てる次代への認識共有



Rengoアカデミーで感銘を受けたと「初心に戻る」覚悟を披瀬しつつ、祝辞を述べる来賓の  
神保政史連合事務局長



自身の理事長就任当時3大学  
だった連合寄付講座が29大学  
に増えたことに触れつつ乾杯の  
発声をする岡部謙治元理事長



歓談中には事業の変遷で30年を振り返る  
映像や、幸せさがし文化展 絵画部門審査員・勅使河原純さんのインタビュー映像  
が流された



「集い」参加者への感謝の言葉に加え、  
「教育は労働運動の一丁目一番地」と宣  
言し、閉会の挨拶をする永井浩重理事

2025年11月27日(木) 東京・湯島の東京ガーデンパレスにおいて、公益社団法人教育文化協会(ILEC)の設立30周年「感謝の集い」を催しました。

ILEC会員組織、地方連合会、講師、寄付団体、修了生など来場いただいた約200名に感謝を伝えるとともに、より一層良い事業を運営することを誓い、多くの仲間とともに、次代の世界が希望をもって見渡せる社会にしていくという認識を共有しました。

また、当人は30周年を機に作成した「えでゅー」と「かるるん」というキャラクターもお披露目しました。



法政大学大学院 連帯社会インスティテュート  
設立10周年記念シンポジウム

# 連帯社会の中身を豊かにする

OCTOBER 28, 2025

主催: 公益社団法人 教育文化協会 連帯社会研究交流センター



# この10年を総括し、次の10年を展望する

## 連帯社会の中身を豊かにする

第一部では、中村圭介東京大学名誉教授をモデレーターに、禹宗杭教授（労働組合プログラム）、伊丹謙太郎教授（協同組合プログラム）、池本修吾教授（NPOプログラム）の専任教員からメインテーマである「連帯社会の中身を豊かにする」ためのプレゼンテーションがありました。



木村 裕士  
連帯社会研究交流センター  
運営委員長



永井 浩  
教育文化協会専務理事



ダイアナ・コー  
法政大学総長



禹 宗杭教授  
(労働組合プログラム)



伊丹 謙太郎教授  
(協同組合プログラム)



池本 修吾教授  
(NPOプログラム)



## 連帯社会構築に向けて取り組むこと

第二部では、同じく中村圭介東京大学名誉教授をモデレーターに、ゲストスピーカーの安河内賢弘JAM会長は労働組合の視点から、村木厚子全国社会福祉協議会会長はNPO・社会的事業の視点から、杉本貴志日本協同組合学会会長・関西大学商学部教授は協同組合の視点から「連帯社会構築に向けて取り組むこと」について、問題提起がありました。



安河内 賢弘  
JAM会長



村木 厚子  
全国社会福祉協議会会長



杉本 貴志  
日本協同組合学会会長  
関西大学商学部教授

## 連帯社会インスティテュートに期待すること

休憩後、中村圭介東京大学名誉教授をモデレーターに和氣未奈さん（協同組合プログラム第1期生）、宮島佳子さん（NPOプログラム7期生）、三池沙織さん（NPOプログラム7期生）の3人の修了生から「連帯社会インスティテュートに期待すること」のコメントがありました。



和氣 未奈さん  
(協同組合プログラム第1期生)



宮島 佳子さん  
(NPOプログラム7期生)



三池 沙織さん  
(NPOプログラム7期生)



モデレーターを  
務めていただいた  
中村 圭介東京大学名誉教授



教育文化協会相原康伸理事長を  
交えて、登壇者と記念撮影



---

教育文化協会 30年のあゆみ (1995年~2025年)

2026年1月発行

発 行: 公益社団法人 教育文化協会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館1F

TEL 03-5295-5421

URL <https://www.rengo-ilec.or.jp>

編集協力: 株式会社 三恒

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-6-17 合同ビル4F

TEL 03-3252-7325

URL <https://www.san-kou.or.jp>

---